

『宇宙生命へのアプローチ』

昨年十二月、三鷹天文台での勉強会で「天の川の構造と銀河系文明」と題して講義をして頂いた祖父江先生が、『宇宙生命へのアプローチ』（宇宙文明に迫る銀河図書館構想）という本を出版された。

先生のお話にあった「銀河系の中の太陽の数は二千億個」「地球と同じ文明を持つ星は千個以上ある。」という話に驚かされた記憶がまだ残っている。

その講義の内容を更に詳細に、カラー写真を多く採用して体系的に整理された

ものがこの本の内容と言ってよいであろう。

内容は、序章「広大な宇宙に私たちは孤立するのか」、第一章「銀河系の星の数」、第二章「恒星・太陽の誕生」、第三章「太陽系、惑星系の誕生」、第四章「宇宙生命」、第五章「銀河文明」、第六章「銀河図書館」、第七章「ジオパーク・銀河系遺産」、終章「宇宙生命へのアプローチ」と興味深い内容が続く。

興味深い写真や図とともに難解な理論を解かりやすく説明してあり、読むうちに知らず知らず広大な宇宙空間に引き込まれてしまう。

先生の講義を思い出しながら読んで頂くとまた一層楽しめる。是非一読を。

最後にこの本の「はじめに」に書かれている文章の終わりの部分を以下に引用した。

第一章から三章では、銀河天文学をもとに基礎的な知識について詳しく学ぶ。すなわち銀河系という天体についてよく知り、恒星の分布や性質、惑星系の誕生について本格的に考察する。物理や天文学はひとまず、という人は、第四章の宇宙生命から読み始め、必要に応じて戻るのがよいだろう。

第五章と第六章で、銀河系における文明の数について考え、銀河図書館構想を紹介する。それは電波を使って文化や文明を、銀河系規模で共有しようという考えである。地球外生命の探査という意味を越えて、より高度で未来的な、文化・文明への提言である。星と星の間の通信には、携帯電話やテレビでおなじみの、電波通信が大いに役に立つというような具体的なことにも触れる。そして七章では、構想実現に必要な一〇〇〇年のハイテク、



ジオパーク構想、そして太陽系文明の将来について考える。

銀河図書館によって私たちは、数千光年かたの文明を、数千年の時をへだてて受け継ぐことが可能である。あるいは、地球で育んできた文化を銀河系に永遠に遺すことも夢ではない。銀河図書館を紹介した銀河文明との出会いが、宇宙生命の検出になるかもしれない。知的な生物が到達する文化や文明は、生命活動の最たる側面であり、本書で紹介する図書館法は、数千光年をへだてて生命を検出できる、バイオアストロノミーの一つの方法としても興味深いであろう。



では、銀河文明に出会えるかどうか、本格的に考えていくことにしよう。

(編集部)

『宇宙生命へのアプローチ (宇宙文明に迫る銀河図書館構想)』祖父江義明 著 誠文堂新光社四六判二二七ページ 定価一八〇〇円＋税

